

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



「夏の交通事故防止運動」に合わせ、西脇多可交通安全協会などの約20人が街頭啓発を実施。施設の利用者に啓発グッズを手渡しました。(7月16日、茜が丘複合施設みらいえ)



北はりま旬菜館が開業8年を迎えたことを記念して感謝祭を開催。野菜の詰め放題や出荷者協議会による旬野菜の焼きそば販売などが行われました。(7月6日、北はりま旬菜館)



「西脇市を花と緑でいっぱいしたい」と、西脇北高校の生徒たちが種から育てたマリーゴールド400株を、市役所など30施設に寄贈しました。(6月20日、西脇市役所ほか)



子どもたちに七夕行事の風習に親しんでもらおうと、みらいえに笹を設置。さまざまな願い事を書いた短冊が飾り付けられました。(6月29日～7月13日、茜が丘複合施設みらいえ)

犯罪や非行のない明るい社会を

(7月1日 西脇市役所)



運動は犯罪や非行のない社会を築こうとする全国的な取り組み。今年で69回目

7月の「社会を明るくする運動」強化月間に合わせ、北播保護区西多分区保護司会の岩本幸久会長が、保護司会の皆さんとともに市役所を訪れ、片山市長に総理大臣メッセージを伝達。片山市長は「次世代を担う子どもたちへ、皆さんの豊富な経験を伝えてほしい」と述べ、活動に敬意を表しました。

兵庫県騎手会がオークション収益金を寄付

(6月25日 西脇市役所)



「西脇市の畜産振興に役立ててほしい」と収益金を手渡す兵庫県騎手会副会長の竹村達也騎手(左)

兵庫県騎手会から西脇馬事公苑がある本市へ、チャリティーオークションの収益金を寄付いただきました。同会は社会貢献活動の一環でオークションを開いており、騎手のサイン入りグッズやゼッケンなどを出品。副会長の竹村達也騎手が来庁し、収益金のうち11万3千円を片山市長に手渡しました。

各種団体が日頃の練習成果を披露

(7月14日 西脇市民会館)



市民ボランティア・市民企画委員会「0」が主催

市民企画委員会「0」主催の「第21回★みて★きいて!あなたが主役フェスティバル」で、各種団体が日本舞踊やバレエなどの多彩な演舞を披露。のど自慢のほか、アクセサリーや布小物などの手作り品が並ぶ「手づくり趣味の市」、射的や金魚すくいを楽しめる「100金遊び市」も開かれました。



本市の活性化策を提案した関西学院大学総合政策学部の学生ら

関西学院大学総合政策学部(三田市)で「都市財政論」を学ぶ3年生12人が、西脇市の活性化策について発表しました。この取り組みは本市と同大学が平成28年に締結した包括的連携協定に基づくもので、今年で4年目。学生らは片山市長の授業を受講したり、本市でフィールドワークをしたりして、本市への理解を深めてきました。学生は人口減少や高齢化、空き家、情報発信の方法などに着目し、3つのグループに分かれて、学生ならではの視点で市の活性化策を提案。課題に高齢化や空き家の増加を取り上げた班は、空き家を高齢者向けのシェアハウスに活用する案を紹介しました。また、移住・定住者の増加策を研究した別の班は、1泊2日の日程で観光や職業体験ができるツアーを発表しました。

市の活性化へ関学生がアイデア提案

(7月13日 茜が丘複合施設みらいえ)

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで(市役所内線207)。

市内の高校生が被災地支援

(7月20日、21日 西脇市民会館、コミュニティセンター西脇区会館)



被災地支援に参加した西脇北高校の生徒ら

東日本震災の被災地を支援しようと、西脇北高校の生徒15人が宮城県石巻市や仙台市を訪問。被災地支援は平成23年から続いており、参加した北高生らは県内2校の生徒とともに、宮城県水産高校生らと交流したり、被災者の農業を手伝ったりしました。また、西脇高校と西脇工業高校



心を込めてたてたお茶を提供

の茶道部員22人は、「北海道胆振東部地震で被災された方々の力になりたい」と、チャリティー茶会を開催。茶会はこれまで、東日本大震災や平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨などの復興支援を目的に開かれ、今年で10回目。両校の部員らは茶券の収益を寄付することにしています。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 Facebook で情報発信中!